

お茶の水女子大学 **ECCELL**
社会人プログラム
変革期の乳幼児教育・
保育を考える

平成24年度 後学期



〔開講科目・開講曜日〕

コミュニティ保育資源の活用Ⅱ

(火曜日) 2単位 担当:多田千尋

乳幼児発達障害論Ⅱ

(水曜日) 2単位 担当:榊原洋一

現代保育課題研究Ⅳ

(木曜日) 1単位 担当:浜口順子、榊原洋一 他

子ども理解と保育の探求Ⅱ

(金曜日) 2単位 担当:菊地知子

乳幼児保育マネジメントⅡ

(集中講義 12/15, 12/16, 1/5, 1/6)

2単位 担当:安治陽子

比較保育実践研究Ⅱ

(集中講義 1/12, 1/13, 2/2)

1単位 担当:星三和子

■ 受講生は、お茶の水女子大学科目等履修生として登録され、どの科目も授業回数の3分の2以上出席する他、一定の条件を満たした場合には、単位が認定されます。

■ **男性も受講可能**です。

■ 開講時間：18:20～19:50

(2単位：15コマ、1単位：7.5コマ)

■ 納付金：

検定料 9,800円

入学金 28,200円 (継続の場合、3年間有効)

授業料 14,400円 (1単位につき)

※本学卒業生・修了生は、入学金が無料となります。

詳しくは、お茶の水女子大学 **ECCELL** ホームページ
をご覧ください。

⇒ <http://www.cf.ocha.ac.jp/nyuyoji>

応募期間

平成24年7月23日(月)～7月27日(金) (※消印有効)

応募方法

出願要項・入学願書をお茶の水女子大学ホームページからダウンロードしてください(大学教務窓口に直接請求することもできます)。

出願に必要な書類を整えた後、下記送付先までご郵送ください。

⇒ お茶の水女子大学ホームページ：<http://www.ocha.ac.jp>

〔願書送付先〕

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1 お茶の水女子大学 教務チーム (電話：03-5978-2722)

〔問い合わせ先〕

お茶の水女子大学 **ECCELL** 社会人プログラム

電話：03-5978-5949 E-mail：nyuyoji-info@cc.ocha.ac.jp

平成24年度 後学期 開講科目

■コミュニティ保育資源の活用Ⅱ（火曜日）

多田 千尋（東京おもちゃ美術館 館長）

地域との連携と協同が今や不可欠の保育及び幼児教育、子育て支援の中で、コミュニティの中に人的資源や文化資源を見出し、計画・連携の実行を図れるよう知識を身に付け見聞を広げる。また、現場検証を重視しつつその方法を探り、コミュニティ保育資源の可能性を具体的に探り、地域コミュニティを精査できる力を育むことを目標とする。

■乳幼児発達障害論Ⅱ（水曜日）

榊原 洋一（お茶の水女子大学大学院 教授）

乳幼児発達障害論後期では、前期に引き続き、乳幼児期に比較的良く見られる神経、精神疾患について概説する。具体的には、てんかん、脳性まひ、筋疾患などの神経疾患、精神遅滞、言語遅滞、協調性運動障害などの発達障害、さらに心身症、不安障害、うつといった精神疾患の特徴、原因と対応について、詳しく解説する。

■現代保育課題研究Ⅳ（木曜日）

浜口 順子（お茶の水女子大学大学院 准教授）ほか

本授業は、ゼミ形式で話し合いながら、まず受講生自身の関心をもとに乳幼児の保育実践や教育に関するさまざまな問題について各自研究テーマを設定し、最後に研究レポートを作成することをめざします。受講者が多い場合、なるべく個別指導が可能となるように、グループ別のゼミも行う予定です。子どもの発達・育ちと保育の関係、実践現場における子育て支援の在り方、観察記録やカンファレンスの活用、保育環境や表現の問題、海外の保育との比較や保育の歴史など、身近な関心から多様なテーマを取り上げ、受講者どうしのコミュニケーションを楽しみながら各自の考察が深まる時間にしたいと思います。

■子ども理解と保育の探求Ⅱ（金曜日）

菊地 知子（お茶の水女子大学 ECCELL 講師）

居まい、居心地、居場所、居る／居ない／居なくなる、居にくさ／居やすさ等、「居る」ということをキーワードに、子ども・保育を考え、人が人を理解するということについて考える。「子ども理解と保育の探求Ⅰ」に引き続き、現代の日本において多彩で重厚な保育的活動を展開している方々や実践を支えるユニークな人たちをお招きしてお話をうかがう。各ゲスト講師には、1回ないし2回ずつ、時にワークショップも交えながら独自に授業を展開してもらい、2回目ないし3回目には、受講者からの発言（質問・意見・感想）を生かしつつ、ゲスト講師と当授業担当者との対談によるまとめを行う。受講者一人ひとりが「保育＝共に生きること」の実践者・当事者として参加し自らの思考を発展させられる場となることを目指す。

■乳幼児保育マネジメントⅡ

〈集中講義：12/15（土）12/16（日）1/5（土）1/6（日）〉

安治 陽子（お茶の水女子大学 ECCELL 講師）

子どもの育ちは、それぞれに豊かな学びと発達に支えられている。保育の場は、そのような豊かな学びと発達を子ども自身が実現していく場であり、保育者には、それを細やかな配慮のもとに準備し、さまざまな保育・教育資源、人的資源を活用しながら保育環境を構成していく力、さらにその場に依じて一場面の展開に依じて、また子どもの育ちに依じて柔軟にアレンジしていく力が求められる。子どもの育ちも保護者のニーズも多様化し、保育のあり方も複雑化しているなかで、しかし子どもは、実に豊かな学びを実現し、発達を遂げながら、保育という場で生活体験を積んでいる。子どもの生活体験について、その豊かな学びと発達に即して理解を深め、日々の保育の意味をとらえ直す作業を通して、保育の質向上のための取り組みを自ら駆動していく力をつけていくことを目標とする。

■比較保育実践研究Ⅱ〈集中講義：1/12（土）1/13（日）2/2（土）〉

星 三和子（名古屋芸術大学大学院 教授）

ヨーロッパの保育について概要を知り、また実際の保育の例を映像と資料から学ぶ。日本とは異なる保育の歴史、制度、文化をもつ国で行われている保育を知ることは、共有する点はもとより、日本の保育についての考えを相対化し新しい視点から見直すことを可能にする。また討論を通して、実践者の日々の自身の保育実践への省察の機会も提供したい。